

『みんなの図書館』2016年5月号（図書館問題研究会2016年4月10日発行）

図書館学習会略報——田井郁久雄氏講演会

図書館友の会山口県連絡会 藤村 聡

日時：1月31日13:30～15:30、会場：山口県立図書館、山口市立図書館の友の会3グループの共催。満室御礼の62人の参加、図書館友の会全国連絡会の県外メンバーも数名出席し予想以上の盛会となった。講師は田井郁久雄氏（元広島女学院大学准教授）、演題は「ツタヤ図書館と民営化の基本的な問題～公のサービスの意義を考える～」。

岩国市の講演会（6/29）では武雄市図書館の問題を中心に話しされたが、今回は主に海老名市立中央図書館の調査を基に、パワーポイントの写真を活用して、先ずツタヤ図書館問題について究明された。

多くの問題がある中で、特に図書館員と書店員とが兼務である問題など、指定管理料と書店経費との境界が不透明になり、税金が流用される構図であること、また、図書館蔵書の新古書店からの購入は、書店の販売本が売れるようになる構図という、まさに市民を愚弄する業態であることが鮮明にされた。税金の使われ方をもっとチェックしなくては！

（スターバックスも多国籍・無国籍企業として避税で有名、イギリスでは不買運動まで起きているが、日本で人気なのは納税者意識が希薄なためか、岩波新書『タックス・イーター』にも言及されている）

さらに、背景となる図書館民営化の問題点について詳細なデータを基に、こちらもパワーポイントのグラフを駆使して解説された。

指定管理者制度を改めて検証し、サービスは向上していないし、経費は削減されておらず、地域の人材としての職員も育たないなど、丸投げによる公的責任の放棄となる実態を論難された。

一方、直営の図書館の現状についても、館長と司書職員が役割と責任を果たす頑張りを求められるとともに、行政による民営化の目的化に対し、徹底して問題点を明確にしていくことを求められた。

最後に、図友連が1月末に発行したパンフレット「ツタヤ図書館のいま」を、中心編集者の瓜生さんにPRしてもらった。

企業の社会的責任を無視しているCCCに丸投げし、公的責任を放棄して「ツタヤ図書館」にしてしまう偽計を阻止しなくてはの思いを強くした学習会となった。

図書館学習会に参加して

図書館友の会全国連絡会 瓜生泰子

田井郁久雄氏の講演を聴くにあたりまずは予習とばかり、雑誌『世界』2015年12月号

掲載の「虚像の民営化「ツタヤ図書館」」を再読しつつ会場に向かった。雑誌を購入し、該当記事を読み、その内容の隙の無さに感嘆し、「「ツタヤ図書館」のことをきちんと理解したいならこの記事を読むべし」と何人の人に伝えただろうか。列車に揺られながら、2015年6月山口県岩国市で開催された田井郁久雄氏講演会「武雄市図書館の実態と問題を考える～あまりにも疑問が多いCCC(ツタヤ)指定管理図書館」(図書館問題研究会山口支部主催)に参加できなかった悔しさも思い出しつつ、講演内容への期待に胸を膨らませながら会場近くの駅に到着した。

参加者は最終的に62名という「山口市立中央図書館友の会「トネリコ」」主催の学習会としては予想を超える人数に、受付はうれしい悲鳴をあげながら不足する資料の確保に奔走していたようである。

これほどまでに「ツタヤ図書館」に対する関心が、悪い方向に高まったことは非常に嬉しい状況である。しかし同時に辛くもある。田井氏の話にもあったように、武雄市に「ツタヤ図書館」が誕生する時リニューアルオープン前からメディアの過剰な報道が行われ、視察が訪れ、「ツタヤ図書館」の評価がおこなわれる前に「わが町にも「ツタヤ図書館」を！」と勇み足をする議員や市長が湧いて出たのだ。メディア報道によってもたらされたあの狂騒は空疎なものであったが、その馬鹿騒ぎの代償はあまりに大きい。

さて、田井氏の講演は先に紹介した論文に違わず緻密な調査による事実の積み上げを基にした内容であり、スライドとはっきりした語り口でもって、とてもわかりやすいものであった。また、「ツタヤ図書館」だけに限らず「指定管理者制度」「直営の図書館」についての検証も発表された。

私が一番印象に残っているのは「指定管理館の数年後の検証が行われていない」という話で、ほどほどの図書館が指定管理館になった場合、一旦は伸びる利用者数が数年後には軒並み落ちるというグラフだった。また、司書のモチベーションが上がれば図書館の魅力も上がるという話も興味深かった。司書のモチベーションがどうやったら上がるのか、それは複合的な要因でもたらされるのだろうが、嘱託職員など低賃金で働いてはモチベーションも上がりにくいだろうと考えながら聴いていた。

レジュメの項目も幾つか飛ばし、少し早口での講演だったので、氏は語り足りなかっただろうと思ったが、私自身も、もっともっと聴いていた講義会であった。